

3月は霊月である。御霊祭を勤める月。出直した御先祖の人たちのお徳を称え、お偲びする月である。

20日は彼岸の中日であって、霊様や仏壇に手を合わせたり、お墓参りなどする為に昨日は、日本全国休日にしてある。

出直しについて勉強させていただきたい。

出直しとは、死ぬことを天理教では「出直し」というが、それには意味がある。神様からお借りした身体をお返しする。「身はかしものかりもの心一つが我がのもの」心とは魂をさしていると考えられる。

元の理（教典第三章）どろうみ口記

立教元年（天保9年10月26日・1838年）から数えて9億9千9百99年前に、親神様はこの世と人間をお創造り下さった。陽気ぐらしをする様をみて楽しみたいから。

陽気ぐらしをする為に人間を創った。陽気ぐらしはもとのいんねんである。

3寸 出直し

3寸5分出直し いざなみ命は姿を隠す

虫、鳥、畜類 8千8度の更生をえる。

めざるが1匹 男5人女5人の10人ずつ

8寸 泥海の中に高低が出来る

1尺8寸 海山、天地、日月の区別が出来る

1胎に男1人女1人の2人ずつ

3尺 ものを言い始める

1胎に1人ずつ

5尺 海山、天地、世界もみな出来て、  
陸上の生活をする

9億9万年は水中の住まい、6千年は知恵の仕込み、  
3千9百99年は文字の仕込み。

人間は出直しを繰り返しながら少しずつ成長させていただかねばならない。更に、より陽気ぐらしの出来る人間に、神様が望まれる人間に。元々陽気ぐらしをさせる為に創ってくれてある。

人間はどこから生まれ、どのように生きて何処へ行くのか？

桜本一巳さんが、3月2日に出直した。3月4日にみたまうつし、5日に告別式。  
桜本さんはあの世へ行った。

昨年からは出直しラッシュで、栃原の前会長さん、吉野郷の前会長さんの奥様、  
そして、今年は、大阿太の前会長さんと、一時代活躍されたご婦人達があつた世へ  
旅立たれた。

私も出直す時が来る。脳梗塞から動脈硬化、心筋梗塞で出直すかも。人間はいつ  
か必ず出直す時が来る。

出直しは一時は寂しい、悲しい事だが、暗い事ではない。

あの世とは親神様の懐です。親神様の元に返っていく。そしてまたいつかこの世  
に帰って来る。我々は等しくあの世から帰って来た。

あの世から帰って来る前に住んでいた世界を前生という。どんな時代に何処に住  
んでいたか全く分からない。前生は分からない、覚えていないもの。

「親は前生、子は来世の姿や」

「前生のいんねん寄せて守護するこれで末代しかと治まる」

秀次先生（50歳）と小東まつえさん（19歳）の明治2年、結婚の時のおふでさき。常識では考えられない事も前生のいんねんだからと教祖が出向かれて結婚が決まった。

「たんのうは前生いんねんのさんげ」

「いんねんというは、でけんたんのうするは、前生いんねんのさんげ。これより前生いんねんのさんげはないで」 M. 32. 3. 23

「夫婦仲治めるなら、前生いんねんのさんげと諭しおこう」 M32. 9. 3  
夫婦仲良く暮らす事は前生のさんげになる。

身体はお返ししてもたましいは生き通しですから、  
前生のたましいで生まれてくる。

生きている間に生活している間に（心は我のもの）

八つのほこり、いんねんになり、陽気ぐらしが出来にくい人生を送る人がある。事情、身上に印しつけて本来の元のいんねん通り、陽気ぐらしできるようにお導き下されている。

脳梗塞、火傷なども我が心を見つめ直す機会である。

その人に一番相応しい事情、身上でお知らせを下さる。

我々の命は一代だけで終わるのではない。

死んだらそれでお終いではない。1代限りやと思うから、好き勝手な生活をしてしまう。自分さえ良かったらそれでいいのではない。

生まれ替わって来ると信じる。「出直し」て来るのだと信じる事が大事である。

大阪のおばあさんの話。(挿話)

地獄、極楽、天国はあの世にあるのではなくてこの世にある。素晴らしい陽気ぐらしをさせていただかねばならない。

出直しについての話

村田幸工門先生の話 (挿話)

泉田藤吉先生の話 (挿話)

榊井りん先生の話 (挿話)

出直しを信じることである。

逸話篇に、(逸話篇を読みながら説明する)

生きながら出直すこと。

諭達第1号のご発布をいただいて、「実動の旬」の今、正にしっかりと実動させていただくことが肝心である。「実動」とは、親神様にお喜びいただく行い全てである。自分さえ良かったいい心から、回りの人が喜ぶ行いをする事である。スーパーへ買い物に行く時の駐車場の場合も。(挿話)

みかんを選ぶ場合も。(挿話)

家族の会話も。

においがけ、おたすけをさせていただくことも。どんな小さなことからでも出来る。

「理は見えねど、皆帳面につけてあるも同じ事、月々、年々余れば返す、足らねば貰う、平均勘定はちゃんと付く」 M. 25.1.13

「実動の旬」の本年、お互いにそれぞれの持ち場、立場でこの世で陽気ぐらしをさせていただけるよう今、この世で生活させていただいている事を喜び、しっかり前生のいんねんをたんのうでさんげさせていただき、この世で陽気ぐらしをさ

せていただけるよう「たすける理で助かる」と、勇んでつとめさせていただき  
きましょう。